

- .....Tatsushi ISHIZAKI...( 140 )
- 67 On the reception of Bright's disease in the Meiji Period  
 .....Satoshi AIDA...( 141 )
- 68 Julius Hirschberg and his Japanese hosts  
 .....Yasumasa OKUZAWA and Jurgen KOVACS...( 143 )

<本号の表紙絵>

江戸時代の歯磨売り

大道香具師のなかで、盛り場などで大太刀の居合抜きやこま回しなどの芸をみせることで人を集め、歯薬、目薬、陣中膏藁の油、歯磨、反魂丹などを売ったり、また口中の療治や歯を抜いたりしていた者もいた。さらに、江戸末期には入歯なども作った者がいて、これらを入歯渡世者と呼び、特に抜歯を主とした者は歯抜、または歯抜屋と呼ばれ、民衆に親しまれた。

これら大衆的な口中療治者に、松井源水、長井兵助、竹澤藤次らがいて、彼らはこれによって一家を成した人々である。

一太刀風で家伝歯磨売りちらしー

(谷津三雄)